長州藩 … 下関事件

1863年、尊王攘夷運動がもっともさかんな長州藩は、朝廷の支持を得て、下関海峡を通るアメリカ商船を砲撃した。

逃げていくアメリカ商船を見て攘夷派は大いに盛り上がり、その後、フランス軍艦、オランダ軍艦も砲撃した。

しかし、

アメリカ、イギリス、フランス、オランダの4か国の連合艦隊は、軍艦17せき、5000人の兵士を率いて、長州藩の砲撃に対する報復と、航行の安全確保のため、下関の町を攻撃し、砲台を攻撃した。

↓

イギリスは長州藩に対し、

- 新たな砲台建設の禁止
- 三百万ドルの賠償金
- 下関海峡を通る外国船に水や燃料を提供する

} ほぼ全面的に呑まされた。

長州に西洋の力を見せつけ、攘夷が不可能であることを示す目的もあった

通訳は伊藤博文

このとき講和にあたった高杉晋作は、「彦島を租借地としてイギリスに渡す」ことだけは断固として拒否した。
（日本の領土をイギリスに渡せば、第二の香港になると考えたから）

そして、欧米の軍事力を目の当たりにした長州藩の木戸孝允は、「攘夷は無理！」と悟り、幕府を倒して外国に対抗できる国家をつくる方が先だと考え、藩の実権を握る。